

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

- 1 私たちは、子どもを守り育てます。
- 2 私たちは、法令を遵守します。
- 3 私たちは、不祥事を起こしません。

不祥事根絶のための行動計画

三次市立川西小学校
作成責任者 校長 平田 雄三

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○当事者意識を持った服務研修が十分にできていない。(不祥事に対しての課題意識、危機感が不足。) ○一人一人がセクハラ等ハラスメントに関する理解が不足していた。 ○職員同士で指摘しあうことが十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員一人一人が当事者意識を持った服務研修を実施する。 ○セクハラ等の理解を図ることができるよう研修を企画する。 ○お互いの信頼を高め、協力して校務に取組む職員集団をつくる(悪いことは悪いと指摘しあえる職員集団)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○服務研修の方法や内容等を見直し、ロールプレイ等、より体験的な研修を実施する。 ○セクハラ等ハラスメントに関する専門的な知識を有する講師を招聘する。 ○児童を中心に据え、お互いに叱正すべきことはきちんとと言える職場の雰囲気作りを進める。そのために、具体的な事項(例えば、職員室の机の片付けに取組む等)について共通認識で取組み、お互いに声を掛け合い、不祥事防止委員会が確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に不祥事防止委員会を開催し、服務研修の進捗状況の確認や研修内容・方法の見直しを協議する。 ○毎週金曜日の職員暮会で児童の様子や職場の状況等で気になることについて情報交換し、対策について協議する。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○職員同士のコミュニケーションが十分でない。 ○不祥事防止委員会メンバーの具体的な役割が不明確である。 ○「不祥事防止委員会」と「体罰、セクシュアル・ハラスメント」等の相談窓口のメンバーが重複している、していないがあり、各自の役割が交錯している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員同士のコミュニケーションをさらに充実させ、組織として仕事を進めることができるようにする。 ○不祥事防止委員会の仕事内容、セクハラ等の窓口の仕事内容やメンバーを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各部会等で互いの仕事の進捗状況を確認し、特定の者に負担がかからないよう集団でサポートする体制をつくる。 ○情報の共有が図れる仕組みをつくる。 ○不祥事防止委員会の仕事内容、セクハラ窓口の仕事内容を整理し、かつ不祥事防止委員会や各相談窓口のメンバーを一体化することで、各自の役割や関係性を明らかにし、機動性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○月に1回、部会で情報交換を行い、状況を把握する。 ○学期末に不祥事防止委員会で状況を確認する。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント」等の相談窓口が十分に機能していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント」等の相談窓口の一層の周知と相談体制の充実を図り、相談しやすいものにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談があったとき、誰が、どのように対応していくかのマニュアルを作り、組織的に対応できるようにする。 ○学校だけでなく、ホームページ等で保護者等に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。また、授業参観等保護者が集まる機会を利用して、相談窓口の周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○『危機管理マニュアル』の「いじめへの対応」を相談マニュアルの基準例として掲載する。 ○学期末に児童、保護者を対象に体罰、セクハラ、いじめ等に関するアンケートを実施する。